

地球温暖化対策実施状況報告書

2019年7月 日

（報告先）
横浜市長

住所 京都市右京区西院溝崎町21

氏名 ローム株式会社
総務部統括課長 山根 慎太郎

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	ローム株式会社 代表取締役社長 藤原 忠信				
事業者の主たる 事業所の所在地	京都市右京区西院溝崎町21				
主たる事業の業種	大分類	E 製造業			
	中分類	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	1,668	kl	自動車の台数	台

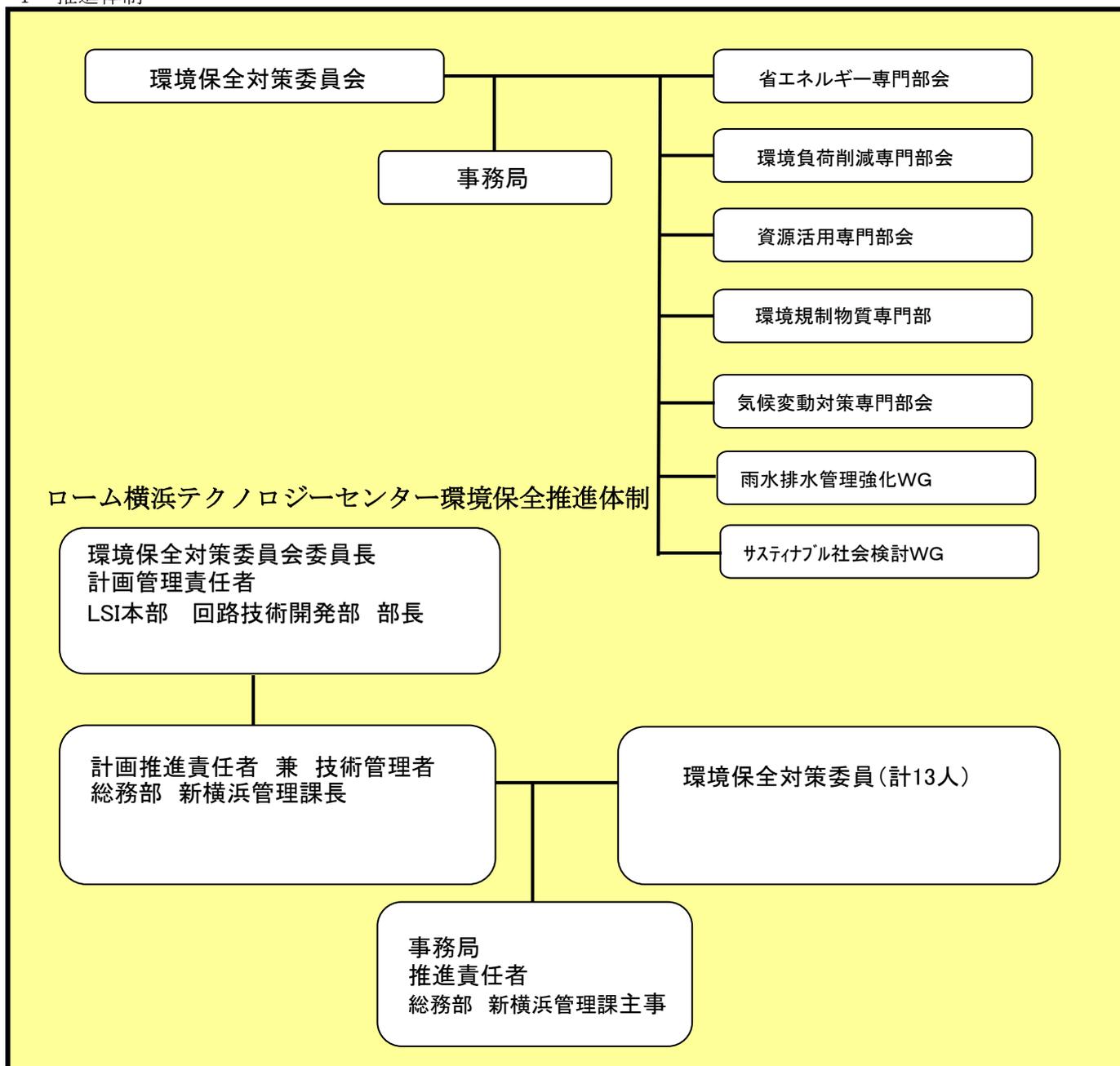
2 計画期間及び実施年度

計画期間	2016年度～	2018年度	実施年度	2018年度
------	---------	--------	------	--------

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針] CO2排出量原単位（t-CO2/延人数）を毎年0.5%削減する。 平日の暖房運転の効率化、エレベーターの間引運転による省エネを推進し、温室効果ガスの排出抑制を図る。 また、2014年から実施の吸収式冷凍機の効率化運転を継続する。 2017年度より、外調機の運転時間見直しにより、温室効果ガスの排出抑制を図る。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討] ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 ターボ冷凍機のインバータ更新。吸収式冷凍機オーバーホール。</p> <p>②上記①の設備を選択した理由 老朽化している機器をリフレッシュすることで能力維持を図る。</p> <p>③設備更新スケジュール 吸収式冷凍機オーバーホール 2016年→実施済、2017年→実施済 ターボ冷凍機のインバータ更新→2018年実施済。</p>

4 推進体制



5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	
窓口で閲覧	閲覧場所	ローム株式会社 横浜テクノロジーセンター 1F 守衛室受付
	所在地	横浜市港北区新横浜二丁目4番地8
	閲覧可能時間	9:00~17:00
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他		

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	3,444	t-CO ₂			基準原単位	0.28	t-CO ₂ /延人数
	調整後	3,388	t-CO ₂			目標原単位	0.28	t-CO ₂ /延人数
目標年度 (2018年度)	目標排出量	3,392	t-CO ₂	削減率	1.5%	削減率	1.5%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	CO2排出量原単位（t-CO ₂ /延人数）を毎年0.5%削減する。 平日の暖房運転の効率化、エレベーターの間引運転による省エネを推進し、温室効果ガスの排出抑制を図る。また、2014年から実施の吸収式冷凍機の効率化運転を継続する。							
事業者全体としての目標等								
第一年度 (2016年度)	排出量	3,389	t-CO ₂	削減率	1.6%	排出原単位	0.28	t-CO ₂ /延人数
	調整後	2,837	t-CO ₂	削減率	16.3%		削減率	0.0%
目標等の達成状況及び説明	平日の暖房運転の効率化、エレベーターの間引運転による省エネを推進等により、排出量削減率は1.6%となり目標年度削減率を上回った。							
第二年度 (2017年度)	排出量	3,326	t-CO ₂	削減率	3.4%	排出原単位	0.27	t-CO ₂ /延人数
	調整後	3,096	t-CO ₂	削減率	8.6%		削減率	3.6%
目標等の達成状況及び説明	外調機の運転時間見直し等により、排出量削減率は3.4%となり、目標年度削減率を上回っている。							
第三年度 (2018年度)	排出量	3,355	t-CO ₂	削減率	2.6%	排出原単位	0.28	t-CO ₂ /延人数
	調整後	3,266	t-CO ₂	削減率	3.6%		削減率	0.0%
目標等の達成状況及び説明	平日の吸収式冷凍機（暖房運転含む）の効率化、エレベーターの間引運転による省エネ推進等により、排出量削減率は2.6%となり目標年度削減率を上回った。							
計画期間全体の排出状況に関する説明	計画期間全体に渡り、平日の吸収式冷凍機による暖房・冷房運転の効率化、エレベーターの間引運転による省エネを推進することで、各年度の排出量は各年度の暑さ寒さの影響により、多少の上下はあるものの、目標排出量を下回ることができた。排出原単位は目標原単位とほぼ変動はなかった。							

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 (年度)	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /
目標年度 (年度)	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%
排出の抑制に係る目標の設定の考え方								
事業者全体としての目標等								
第一年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
計画期間全体の排出状況に関する説明								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
3,000k l 以上								
1,500k l 以上 3,000k l 未満	1	3,444	1	3,389	1	3,326	1	3,355
500k l 以上 1,500k l 未満								
500k l 未満								
合計	1	3,444	1	3,389	1	3,326	1	3,355

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度							
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	3	機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	4	照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	5	エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	6	各種図面の整備	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	7	外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	8	フィルター等の清掃	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	11	室内温度の適正管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	12	地下駐車場の換気管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	13	照明設備の高効率化	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	14	事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	15	機器性能管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) 冷凍機、冷温水発生器2台、ボイラー	4/4	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機、冷温水発生器2台、ボイラー	4/4	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機、冷温水発生器2台、ボイラー	4/4	年度		
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) 冷凍機、冷温水発生器2台	3/3	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機、冷温水発生器2台	3/3	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機、冷温水発生器2台	3/3	年度		
	17	燃焼設備の空気比管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) 冷温水発生器	2/2	年度		実施済	(設備の種類) 冷温水発生器	2/2	年度		実施済	(設備の種類) 冷温水発生器	2/2	年度		
	18	排出ガス温度の管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ボイラー	1/1	年度		実施済	(設備の種類) ボイラー	1/1	年度		実施済	(設備の種類) ボイラー	1/1	年度		
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	実施済	(設備の種類) バルブ、ヘッド	1/1	年度		実施済	(設備の種類) バルブ、ヘッド	1/1	年度		実施済	(設備の種類) バルブ、ヘッド	1/1	年度		
	20	工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし	非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし	非該当	(設備の種類)	/	年度	該当設備なし	
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	実施済	実施済	(設備の種類) オイルフリー式コンプレッサ	1/1	年度		実施済	(設備の種類) オイルフリー式コンプレッサ	1/1	年度		実施済	(設備の種類) オイルフリー式コンプレッサ	1/1	年度		
	22	コンプレッサの吸気管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) オイルフリー式コンプレッサ	1/1	年度		実施済	(設備の種類) オイルフリー式コンプレッサ	1/1	年度		実施済	(設備の種類) オイルフリー式コンプレッサ	1/1	年度		

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度				
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数
第3号該当事業者	23	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
	24	自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			

10 目標対策及び事業者の発意による対策の実施状況

- （注意事項） ・対策の効果が重複して計上されない様にご注意ください。
 ・燃料・熱・電気等の使用量は、一年間での値に換算して記入してください。
 ・記載欄が不足する場合は、横浜市へご連絡ください。

		削減量合計 事業者総排出量		事業者総排出量 (t-CO2)		CO2排出量合計① (t-CO2)		CO2排出量合計② (t-CO2)		削減量合計 (t-CO2)					
		1.08 %		3,355		271.8		235.7		36					
連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
1	暖房の効率化運転	横浜テクノロジーセンター	2016	平日は夜間の暖房未使用時にも暖房用吸収式冷凍機が稼動	都市ガス	97,843	m3	224.4	平日深夜0:00から5:00に暖房用吸収式冷凍機を停止	都市ガス	93,343	m3	214.1	10.3	0 千円
2	エレベーターの間引運転	横浜テクノロジーセンター	2016	平日の運転台数 9:00~11:30 8台運転 13:30~17:00 8台運転 19:00~7:30 8台運転	昼間買電	53,288	kWh	27.3	平日の運転台数 9:00~11:30 6台運転(2台停止) 13:30~17:00 6台運転(2台停止) 19:00~7:30 5台運転(3台停止)	昼間買電	39,549	kWh	20.2	7.0	0 千円
3	外調機の運転時間見直し(AHU-1, 2)	横浜テクノロジーセンター	2017	平日運転時間(9h) 8:30~17:30 (実施後より1h多い) ※右使用量は1hの使用量	昼間買電	14,160	kWh	7.2	平日運転時間見直し 立上開始9:00~に30分遅らせる 16:00~16:30停止	昼間買電	0	kWh	0.0	7.2	0 千円
4	外調機の運転時間見直し(AHU-4)	横浜テクノロジーセンター	2017	平日運転時間(10.5h) 7:00~17:30 (実施後より5.5h多い) ※右使用量は5.5hの使用量	昼間買電	14,520	kWh	7.4	平日運転時間見直し 7:00~8:30 停止 9:30~10:30 停止 11:30~12:30 停止 13:30~14:30 停止 15:30~16:30 停止	昼間買電	0	kWh	0.0	7.4	0 千円
5	外調機の運転時間見直し(AHU-7)	横浜テクノロジーセンター	2017	平日運転時間(5h) 7:00~8:00 11:00~15:00 (実施後より4h多い) ※右使用量は4hの使用量	昼間買電	3,552	kWh	1.8	平日運転時間見直し 11:00~15:00 停止	昼間買電	0	kWh	0.0	1.8	0 千円

連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
6	1階廊下、地下駐車場の一部LED化	横浜テクノロジーセンター	2018	1階廊下、地下駐車場 40W蛍光灯32本 消費電力40W 19時間/日、24日稼動/月	昼間買電	7,004	kWh	3.6	1階廊下、地下駐車場 40W型LED32本 消費電力15W 19時間/日、24日稼動/月	昼間買電	2,627	kWh	1.3	2.2	100 千円
															千円
															千円
															千円
															千円
															千円

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1		年度		
2		年度		
3		年度		
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	89	(株)F-Power/中部電力(株)
2		年度			
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明の導入 ・吸収式冷凍機の効率化運転
計画期間内に実施する対策	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の暖房運転の効率化 ・エレベーターの間引運転による省エネ実施
第一年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物排出量の把握及び削減に係る対策 ・環境配慮型製品の開発
第二年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物排出量の把握及び削減に係る対策 ・環境配慮型製品の開発
第三年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物排出量の把握及び削減に係る対策 ・環境配慮型製品の開発 ・緑地保全に関する取組 ・従業員に対する環境教育 ・ライトダウンキャンペーンへの参加

14 実施状況等に対する自己評価

継続的に空調運転の時間短縮、各フロアの室内温度管理、サーキュレーターを活用、エレベーターの間引運転、不要照明の消灯徹底等により、省エネルギー対策を図っている。
 廃棄物の分別徹底により、古紙の利材化を積極的に行い、排出量を把握し、削減に取り組んでいる。
 開発部門では、環境配慮型製品の開発を積極的に取り組んでいる。
 毎年、従業員に対し、ISO14001認証継続に向けた環境教育や環境ポスターコンクールなどを行い、環境意識向上に取り組んでいる。